

「ひと・まち・くらしの輪が交流連携をはぐくむ

定住都市 玉村町」を目指して



玉村町は、古くから陸路・水利に恵まれ日光例幣使道の宿場町として政治・文化・交通の要衝として栄え、また交通アクセスのよさや好景気に支えられ、隣接する県内の主要都市のベッドタウンとして人口急増し飛躍的な発展を遂げてきました。平成の市町村合併においては自律を表明し、周辺都市と友好関係を保ち協力しながら交流連携を進める独自のまちづくりを展開しています。

そうしたなか、誰もが幸せを実感できるまちづくりを着実に推し進めるために平成23年度より第5次玉村町総合計画をスタートさせ、今回現状の社会情勢を踏まえたまちづくりを効果的に進めるとともに新たな都市の将来像の具現化を目指すため都市計画マスタープランの改定を行いました。

本マスタープランでは、暮らす人の目線で策定することを基本とし「ひと・まち・くらしの輪が交流連携をはぐくむ定住都市 玉村町」を将来都市像に掲げ、多彩な機能を活かし、愛着をもって誰もが快適に暮らし続けられ、豊かな地域資源と調和し、協働によるまちづくりを目標としています。

今後の都市づくりには、恵まれた自然環境、歴史資産を活かすとともに、県央に位置する本町の特徴を活かしながら、平成26年度には開通する東毛広域幹線道路やスマート ICを好機として捉え「新たな広域交通基盤を活かした産業拠点・定住促進プロジェクト」を立ち上げていくことが重要と考えています。「町の活力は人である」ことを念頭に、「住みたい」「暮らし続けたい」「住んでよかった」まちづくりを実現化するために定住環境の整備を目指し、胸をはって子どもたちに継承できる新しい玉村町の創出を、住民の皆様とともに進めていきたいと考えています。

最後に、本マスタープランの策定にあたり、貴重なご意見を賜りました住民の皆様、また、熱心なご審議を賜りました玉村町都市計画マスタープラン策定委員会の皆様を始めご協力をいただきました皆様へ心から敬意と感謝を申し上げ策定にあたってのあいさついたします。

平成24年4月

玉村町長

貫井 孝道